

授業科目名・形態	コミュニケーション技術Ⅱ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	山田 克宏	実務経験の有無	有	開講期	1年後期

### 【授業の主題】

臨床場において、クライアントは様々な障害を抱えて生活している。そのため、コミュニケーションを取る上では、障害の特性を理解していくことが求められます。

本講では、様々な障害特性、障害の特性に応じたコミュニケーション技術を学びます。また、利用者・家族との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護を行う上で必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とします。

### 【到達目標】

- 1) クライアントの抱える障害に応じたコミュニケーション技術を実践できる。
- 2) 介護を行う際に求められるチームにおけるコミュニケーションの方法・意味について説明できる。
- 3) 人間理解を深めることでコミュニケーションを取っていく意味を再認識し、説明できる。

### 【授業計画・内容】

- 第 1回 コミュニケーション障害の理解
- 第 2回 コミュニケーション障害のある利用者への対応
- 第 3回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際①：高次脳機能障害
- 第 4回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際②：失語症
- 第 5回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際③：構音障害
- 第 6回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際④：認知症、(視覚教材を使用予定)。
- 第 7回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤：若年性認知症
- 第 8回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑥：視力障害
- 第 9回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑦：聴力障害
- 第 10回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑧：知的障害
- 第 11回 障害の特性に応じたコミュニケーションの実際⑨：精神障害(統合失調症等、(視覚教材を使用予定)。
- 第 12回 チームコミュニケーション
- 第 13回 記録
- 第 14回 報告・連絡・相談
- 第 15回 会議

### 【授業実施方法】

基本的には、講義と演習を行う。講義に主体的な学習姿勢で臨むこと。(適宜視覚教材を、活用する)。

### 【授業準備】

テキストを事前に確認し、分からない語句を事前に調べておくこと。

### 【主な関連する科目】

コミュニケーション技術Ⅰ、介護の基本、介護過程、人間の理解、高齢者福祉論、生活支援技術、日常生活支援技術演習、障害者福祉論、認知症ケア論等。

### 【教科書等】

コミュニケーション技術(新・介護福祉士養成講座5)中央法規。

### 【参考文献】

佐藤俊一：ケアを生み出す力、川島書店、東京、2011年、諏訪茂樹：援助者のためのコミュニケーションと人間関係、建帛社、東京、1995年、中山慎吾：認知症高齢者と介護者支援、法律文化社、京都、2011年。

### 【成績評価方法】

演習(20%)、レポート(20%)、定期試験(60%)で評価する。

### 【実務経験及び実務を活かした授業内容】

私は、臨床のなかで介護職・相談援助職として仕事をしてきました。私の考えの柱は、「クライアント主体」です。支援者は、コミュニケーションを支援のための手段と考えると困難事例を生み出す人になります。そのあたりの人の存在に関して意味も学び直すことで、技術に関する理解を深めていけます。ともに学びましょう。

### 【学生へのメッセージ】

それぞれの障害特性を理解した上で、クライアントとかがわっていきましょう。また、クライアントとかがわりをイメージしながら、コミュニケーション技術の活用方法を学んでいきましょう。